

# 第8回学校園の適正規模・適正配置検討委員会

令和7年2月3日 <資料>

- 1) 長浜市学校園の適正規模・適正配置にかかる意見の取りまとめ（案）
- 2) 教職員の現状



# 1) 長浜市学校園の適正規模・適正配置にか かかる意見の取りまとめ（案）



# 長浜市学校園の適正規模・適正配置にかかる意見の取りまとめ (案)

長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会  
令和7年3月

## ○意見聴取の趣旨

本市のこどもの人口は減少を続けており、さらに少子化が進むと予測されています。

義務教育の機会均等や水準を維持・向上するとともに、就学前のこどもの保育ニーズ等を反映するためには、一定規模の集団生活の中でこどもたちを育てることが重要となっています。

より良い教育・保育環境の構築と質の高い教育・保育の実現を目指し、学校園における規模の適正化や将来を見据えた適正配置の在り方、少子化に対応した活力ある学校園づくりの在り方などを踏まえた基本方針を策定するにあたり、長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会として意見をまとめました。

## ○長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会委員 敬称略

所属等	役職等	氏名	備考
大学教授	同志社女子大学教職課程センター特任教授	水本 徳明	◎座長
大学教授	滋賀県立大学名誉教授	大橋 松行	○副座長
市連合自治会代表	下草野連合自治会長	西川 又寛	
幼稚園・認定こども園 P T A 代表	六荘認定こども園 P T A 代表	西田 佐智子	
小学校 P T A 代表	びわ南小学校 P T A 代表	塚田 美晴	
中学校 P T A 代表	西中学校 P T A 代表	森 英高	
保育園・幼稚園・認定こども園園長代表	きのもと認定こども園園長	中川 美和子	
小学校長代表	小谷小学校校長	水谷 匡志	
中学校長代表	高月中学校校長	福永 かおる	
保育園・幼稚園・認定こども園副園長代表	あざい認定こども園副園長	辰野 陽子	
小学校教頭代表	びわ北小学校教頭	文室 康志	
中学校教頭代表	東中学校教頭	喜田 憲恵	

## ○意見集約の経過

次のとおり、長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会を開催し、意見を取りまとめました。

会議	開催日	検討内容
第1回	R6.5.20	(1) 長浜市の人口動向について (2) 学校園をめぐる現状について (3) 意見交換
第2回	R6.6.17	(1) 永原小学校視察、ヒアリング (2) にしあざい認定こども園視察、ヒアリング
第3回	R6.7.10	(1) 余呉小中学校視察、ヒアリング (2) たかつき認定こども園視察、ヒアリング
第4回	R6.8.26	(1) 学校園を取り巻くデータ等から見える姿について (2) ワールドカフェ「こどもが幸せになれる学校園とは」 (3) 意見交換
第5回	R6.9.10	(1) 長浜西幼稚園視察、ヒアリング (2) 神照幼稚園視察、ヒアリング
第6回	R6.10.9	(1) 湖北幼稚園視察、ヒアリング (2) 高時小学校視察、ヒアリング (3) 一麦保育園視察、ヒアリング
第7回	R6.11.20	(1) 市民意識調査について (2) 学校園を取り巻くデータ等から見える姿について (3) ワークショップ「こどもが幸せになれる学校園とは」 (4) 意見交換
第8回	R7.2.3	(1) これまでの会議の振り返り (2) 学校園を取り巻くデータ等から見える姿について (3) 意見のとりまとめについて

## ○長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会の意見

上記 8 回の検討を経て、検討委員会として学校園の適正規模・適正配置に向け、大切にしたい視点や目指す姿は次のとおりです。

# 長浜市が目指す将来の学校園の姿

## 長浜市の現状

- ・児童数の減少により、小中・義務教育学校が小規模化し、複式学級が存在する。
- ・就学前児童については、低年齢からの保育、長時間の保育に対する保護者のニーズが高い。

視察やワークショップを受けて

### 子ども

- ・友だちは大事な存在で、関わりを大切にしたい。
- ・単学級では、人間関係や集団の中での役割が固定される。リーダーはずっとリーダーのままになる。
- ・友だちの個性や性格を決めつけてしまうことがある。
- ・少人数の学級では多様な意見が出にくく、話がふくらまない。多いといろいろな意見が出て、発想が豊かになる。
- ・不登校の児童生徒が増えている。

### 先生

- ・仕事量が多く、負担が大きい。
- ・子どもと直接関わる時間をより確保したい。
- ・教材研究や保育・授業の準備に充てる時間を十分に確保したい。
- ・人が不足している。
- ・働き方改革を進めているが、負担軽減につながっていない。
- ・複式学級は、学校運営上負担が大きい。
- ・保護者対応、地域との連携に時間がかかることがある。

### 保護者

- ・先生との信頼関係は重要だと思っている。
- ・先生に思いや悩みをうまく伝えられない。
- ・主張し過ぎてクレマーだと思われたくない。
- ・子どもに失敗体験や傷つけさせたくない。
- ・子どもの話を聞いたり宿題等を一緒にしたりするゆとりがない。
- ・P T Aからの発信や働きかけがあり、子育てについて学びの機会はある。

### 地域

- ・地域と学校は一体、密接な関係である。
- ・地域の方で、子どもの体験活動等が生まれる。
- ・地域と一体となった学校行事を行うことで、人づくり・まちづくりにつながっている。
- ・学校がなくなると地域が衰退するのではないかと心配している。
- ・ボランティアは高齢者が多い。
- ・スクールガードがない地域がある。

いまのすがた

取り組んでいること

- ・オンラインや合同による交流学習
- ・修学旅行の合同実施

子どもが幸せになる学校園をめざして

取り組んでいること

- ・P T A意見交換会
- ・学校の在り方を考える懇談会

めざすすがた

- ・自ら考え行動できる子どもになってほしい。
- ・多くの友だちと関わり、多様な考えに触れられるよう学年複数クラス編制にする。
- ・学校を選ぶことができる選択肢がある。
- ・学区、園区を見直し、旧町を越えた広域統合も視野に入れる。

- ・先生がゆとりをもち、笑顔で、子どもと向き合える。
- ・教材研究や保育・授業の準備に充てる時間が充分にある。
- ・学校統合をすることで、学校園の教員数が増え、業務の負担を減らすことができる。
- ・クレーム対応担当部署を設置する。

- ・子どもをほめ、認める存在でありたい。
- ・学校園、先生との信頼関係があり、子どものことを相談できる。
- ・安心につながる多様な相談先がある。
- ・特色のある多様な学校園があり、ニーズに合わせて選択できる。

- ・責任と自覚をもち、地域と学校を結ぶ。コーディネートする。
- ・小さな地域にこだわらず、より広域での連携を推進する。
- ・大学等とのつながりや地域資源をいかす。
- ・持続可能な学校支援ができるしくみをつくる。

☆クラス替えのできる学校園の規模  
☆自分に合った学校園を選択できる制度

☆先生が子どもと向き合える環境づくり  
☆支え合える教職員集団づくり

☆子どもも保護者も安心できる学校園  
☆特色ある学校園づくり  
☆保護者のニーズに合った学校園を選択できる制度

☆学校園を支える地域  
☆学校園が、地域人材の活躍の場に

## 2) 教職員の現状



# 小・中・義務教育学校における 病気、産育休等の補充対応状況

令和7年1月20日時点 本来、常勤講師が入るべきところ、非常勤講師で対応している人数  
4小学校（**4名**）、1中学校（**1名**）、1義務教育学校（**2名**）  
「常勤講師のなり手がいない。特に年度途中の補充は難しい。」

## 園の職員数

令和6年11月現在

正規職員数259人-育児休業取得職員数46人 = 実稼働職員数213人

配置基準職員数244人-実稼働職員数213人 = **31人不足**

→ 会計年度任用職員などで補充するも充足せず

# 複式学級編制時の小学校教職員の状況（例）

学級数	6学級	5学級	4学級	3学級
		(複式①)	(複式②)	(複式③)
校長	1	1	1	1
教頭	1	1	1	0.75
教務	1	0	0	0
担任	6	5	4	3
養教	1	1	1	1
事務	1	1	1	0.75
教職員合計	11	9	8	6.5

PTA意見交換会では、「この人数で学校の安全が守れるのか。」と心配の声があった。

現在、小規模の幼稚園において、副園長を配置していない園がある。  
園児数の減少により、複数学年合同で保育を実施している園がある。